

おきなわサイクルツーリズムアクションプラン

令和7年3月

おきなわサイクルツーリズム推進協議会

<目次>

第Ⅰ部 はじめに

第1章 おきなわサイクルツーリズムアクションプランについて	P 3
-------------------------------	-----

第Ⅱ部 アクションプラン

施策1 国内外に対するサイクルツーリズムの情報発信	P 8
---------------------------	-----

施策2 サイクリング環境の充実	P12
-----------------	-----

施策3 県民の自転車に対する理解の促進	P15
---------------------	-----

施策4 自転車の利便性向上	P17
---------------	-----

施策5 サイクルツーリズムに取り組む事業者への支援	P19
---------------------------	-----

施策6 ナショナルサイクルルート指定を含む沖縄らしいルートの整備	P23
----------------------------------	-----

第 I 部 はじめに

第 1 章 おきなわサイクルツーリズムアクションプランについて

第1章 おきなわサイクルツーリズムアクションプランについて

1 アクションプラン策定の趣旨

沖縄県は、県内のサイクルツーリズムの受入環境を整え、国内外からさらなる観光誘客を目指すとともに県民のサイクルツーリズムに対する理解の促進など、サイクルツーリズムを推進するための基本的なビジョンを示すことを目指し、おきなわサイクルツーリズム推進基本構想（以下「基本構想」という。）を策定しました。

今後は、基本構想で定めた「目指すべき姿」の実現に向け、施策を具体化し、推進していくことが重要です。このため、基本構想を推進する行動計画として「おきなわサイクルツーリズムアクションプラン」（以下「アクションプラン」という。）を取りまとめます。

2 アクションプランの性格と役割

基本構想では、目指すべき姿の実現に向け、対象（ターゲット）を整理したうえで、基本方針を軸とし、方針に基づいた施策を定めました。

アクションプランでは、施策を展開するための具体的なアクション（取組、目的、内容、実施主体、課題、手法と取組スケジュール）を示します。

なお、アクションプランを実施するうえでは、サイクルツーリズムにおける利害関係者（ステークホルダー）を認識しておくことで、実施主体の役割が明確になり、効果的なアクションプランの実施を図ることができます。

また、沖縄県においてはアクションプランの進捗状況を確認するとともに、サイクルツーリズムを取り巻く環境、最新の動向にあわせて、有識者、業界団体、行政等の意見を求めながら、アクションプランが形骸化しないよう継続的に見直していきます。

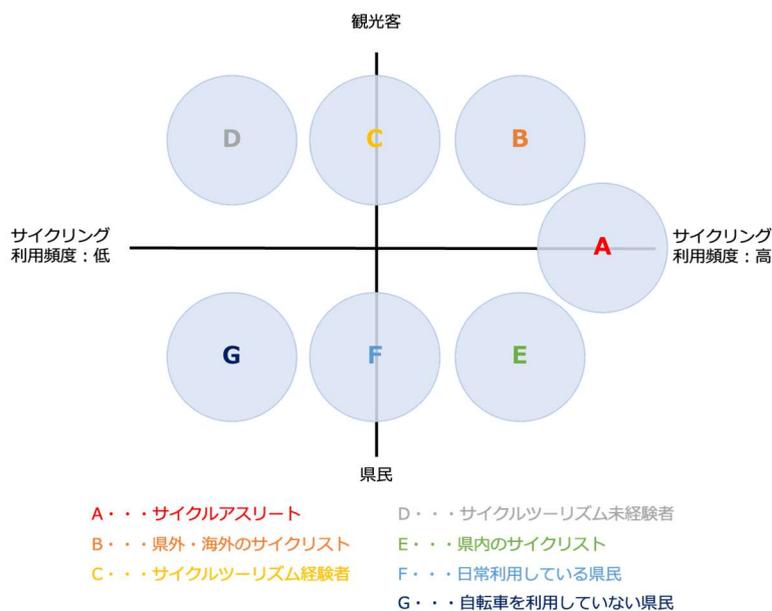


図 ターゲット（全体像）

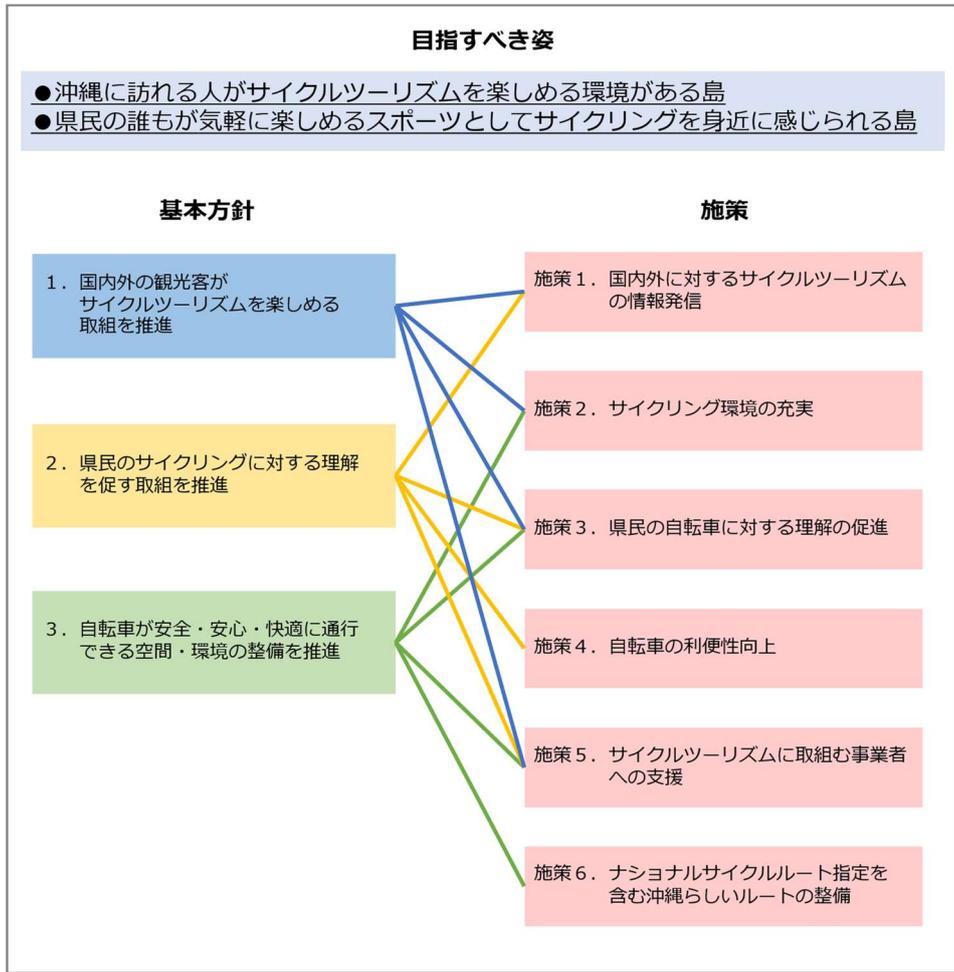


図 基本方針と施策

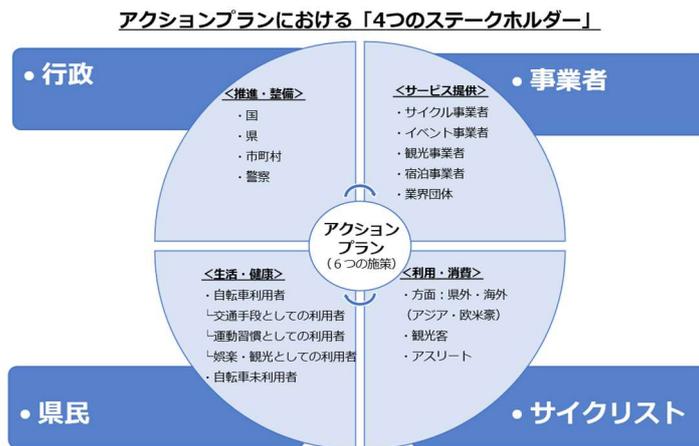


図 4つのステークホルダーの目線と位置付け（事務局作成）

3 アクションプランの体系について

ここでは、基本構想で定めた6つの施策に紐づく具体的なアクションプランの体系をまとめます。

〈おきなわサイクルツーリズムアクションプランの具体的なアクションについて〉

施策名	NO.	アクション名
施策1. 国内外に対するサイクルツーリズムの情報発信	1	沖縄のサイクルツーリズムの普及啓発
	2	沖縄のサイクルツーリズムに係る情報プラットフォームの構築
	3	著名なアスリート等を起用したブランディング・プロモーション
	4	サイクリングマップの構築
	5	既存アプリの活用によるノードポイント構築とノードネットワークツーリズム推進
	6	旅行会社等の意見を取り入れたツアーの造成
	7	インバウンド誘客に向けたツアーの造成
	8	デジタルスタンプラリーやフォトコンテスト等のイベント企画の実施
施策2. サイクリング環境の充実	9	多言語を含む案内誘導看板等の設置推進
	10	サイクリストに選ばれる拠点の整備
	11	主要観光地や駅・停留所などにおけるシェアサイクルの導入と情報発信
	12	公共交通機関を活用した自転車輸送手段の充実
	13	各市町村の自転車活用推進計画策定の促進
	14	自転車事故防止のための交通安全対策の推進
施策3. 県民の自転車に対する理解の促進	15	自転車の利用を促す普及イベントの実施
	16	自転車利用のメリットを広く周知するスローガンやネーミングの公募
	17	自転車利用の奨励と安全を啓発する活動
	18	競技団体を通じて選手を育成・強化する取組
施策4. 自転車の利便性向上	19	県内におけるレンタサイクルやシェアサイクルの充実
	20	サイクルラック及び駐輪場設置の整備推進
	21	学校等への自転車の提供
	22	自転車教室の実施の支援
施策5. サイクルツーリズムに取り組む事業者への支援	23	ファッション目線からのプロモーション施策の実施
	24	サイクリングガイド資格取得の支援
	25	サイクリストを受け入れる宿泊施設への支援
	26	アクティビティや観光事業者へのサイクルツーリズム導入の支援
	27	サイクルツーリズムの関連事業者に対する市場調査・フォローアップ
	28	県外・海外のサイクリストへの輸送サービスの充実
	29	自転車を輸送できるタクシー及び関連サービス事業者への導入支援
施策6. ナショナルサイクルルート指定を含む沖縄らしいルートの整備	30	ナショナルサイクルルート指定に向けた取組の推進
	31	自転車走行環境の整備推進
	32	ゲートウェイの設置
	33	地域の魅力的なスポットを巡るコースの整備
	34	地域性を活かした街中を散策（まちまーい）できる自転車ツアーの提案・推進
	35	九州・山口・沖縄サイクルツーリズムを活用した観光誘客の推進

【アクションの記載例】

アクション1	沖取組の概略を記載しています。啓発		
目的	本取組により期待する効果、取組の目的を記載しています。		
主たるターゲット	取組の対象となるターゲット（3ページ参照）のうち、主なものを記載しています。		
内容	<p>新たな観光の魅力として、国内外で増加しているサイクリストをターゲットにした自転車で楽しめるメニューや環境など「冬季でも楽しめる沖縄のサイクルツーリズム」を広く普及啓発し、関連イベントを通じて県外・海外へ情報を発信します。</p> <p>取組む内容、手法などを具体的に記載しています。</p> <p>例えば、ツール・ド・おきなわ等のサイクルイベントの参加者に対して、その他のイベントや沖縄のサイクルツーリズム環境を発信することにより、県外・海外誘客及び関連施策を展開するためのタイアッププロモーションを実施します。</p>		
実施主体	県、市町村、民間事業者、業界団体 想定される取組の実施主体を、関わりが深い順に記載しています。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 主体となる事業者に関わらず共通する発信内容と手段を検討。 取組を進めるにあたり、想定される課題を記載しています。 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> 「冬季でも楽しめる沖縄の」関連イベントを通じて県外・海外へ情報を発信 「関連イベントを通じて県外・海外へ情報を発信」 「関連イベントを通じて県外・海外へ情報を発信」 <p>1年目から3年目以降にかけての段階的な取組の手法やスケジュールが記載されています。</p> <p>※年数は事業着手後からのスケジュールとなります。</p>		

第Ⅱ部

アクションプラン

施策1 国内外に対するサイクルツーリズムの情報発信

施策2 サイクリング環境の充実

施策3 県民の自転車に対する理解の促進

施策4 自転車の利便性向上

施策5 サイクルツーリズムに取り組む事業者への支援

施策6 ナショナルサイクルルート指定を含む沖縄らしいルートの整備

施策1. 国内外に対するサイクルツーリズムの情報発信

サイクルルートやツアーなど県内のサイクルツーリズムに関する情報を集め、国内外に発信し、サイクルツーリズムの普及に取り組めます。全ての人々が楽しめるように県内で実施されるサイクリングイベントの周知やガイドマップの提供など、多様なおきなわサイクルツーリズムの情報発信に取り組めます。

アクション1	沖縄のサイクルツーリズムの普及啓発		
目的	本県が掲げるサイクルツーリズムの魅力を広く発信し観光誘客に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者		
内容	サイクルツーリズムを新たな観光の魅力として、国内外で増加しているサイクリストをターゲットに、自転車で楽しめるメニューや環境など広く普及啓発します。また、観光の閑散期である「冬季でも楽しめる沖縄のサイクルツーリズム(仮称)」を発信することで、繁忙期の平準化に寄与します。例えば、ツール・ド・おきなわ等のサイクルイベントの参加者に対して、その他のイベントや沖縄のサイクルツーリズムの魅力を発信することにより、県外・海外誘客に繋がります。		
実施主体	業界団体、民間事業者、県、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 主体となる事業者に関わらず共通する発信内容と手段を検討 イベント主催者間の連携、協力 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> 「冬季でも楽しめる沖縄のサイクルツーリズム(仮称)」ブランド構築 発信内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 関連イベントを通じて県外・海外へ情報を発信 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組

アクション2	沖縄のサイクルツーリズムに係る情報プラットフォームの構築		
目的	ターゲット及びあらゆる事業者の利用を促進し、サイクルツーリズムの活性化に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者		
内容	沖縄のサイクルツーリズムを網羅し情報発信拠点となるプラットフォームを構築します。webとSNSを連携したプラットフォームを構築し、多言語での発信を含めたプロモーションを年次毎に充実させていきます。県内事業者等のサービス提供者と、サイクリストや観光客等のユーザーとの双方がレビューできる交流の場として活用を促します。		
実施主体	業界団体、民間事業者、県		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 仕様設計の検討 県内のサイクル事業者との情報の連携 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> 仕様設計の整理・検討(多言語対応含む) 県内の自転車に係る情報の集約・整理 	<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームの構築 プラットフォームの公開 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な情報発信

施策 1. 国内外に対するサイクルツーリズムの情報発信

アクション3	著名なアスリート等を起用したブランディング・プロモーション		
目的	サイクルツーリズムの効果的なブランディング・プロモーション活動を行い、本県が掲げるサイクルツーリズムを広く発信し観光誘客に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、D: サイクルツーリズム未経験者、E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民、G: 自転車を利用していない県民		
内容	国内外で活躍するトップアスリートやレジェンドアスリート、自転車利用に好感が持てるタレント等を起用し、本県のサイクルツーリズムのブランディングに資するプロモーション活動を担っていただきます。著名なアスリート等を起用したプロモーションにより、これまで自転車に接点を持たなかった観光客や県民に対しての認知を獲得し、誘客に繋がります。		
実施主体	業界団体、民間事業者、県		
課題	・ 関連事業者との連携		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ アスリートの選定 ・ 取組の検討 ・ プロモーションツールの制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロモーションの展開 ・ 起用したアスリートのイベント招聘による普及啓発活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

アクション4	サイクリングマップの構築		
目的	サイクリストに有用な自転車旅の情報を提供するとともに、関連事業者にとってサービス展開を図る情報を提供することで、サイクルツーリズムの活性化に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト		
内容	県内のサイクルルートを網羅したサイクリングマップを構築します。デジタル版をベースにパンフレットなどのアナログ版も展開することで、サイクリングマップが広く活用されるよう促します。自転車旅におけるサイクリストのイージーアクセスを実現させるためにレビューを収集する機能を設けます。また、関連事業者はサービスや立ち寄りスポットの情報などを追加・更新できる仕様とすることで、双方向型の情報発信を可能とし、サイクリングマップの充実化を図ります。		
実施主体	業界団体、民間事業者、県、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連事業者との連携 ・ 新規開発もしくは既存アプリの活用の判断 ・ 本島1周ルートやナショナルサイクルルートの既存コース・新たなコースなど最新情報の反映 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規開発もしくは既存アプリ活用の判断 ・ 仕様設計の整理・検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイクリングマップの構築 ・ サイクリングマップの公開 ・ プラットフォーム(前述)と連携した情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な情報更新

施策1. 国内外に対するサイクルツーリズムの情報発信

アクション5	既存アプリの活用によるノードポイント設置とノードネットワークツーリズム推進		
目的	サイクリストの利便性を鑑みた適切な情報発信を行い、ユーザビリティの向上を図ることで、サイクルツーリズムの活性化に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト		
内容	オランダのフランダース地方で活用されているノードポイント(交差点などの繋ぎ目を番号・記号で表したものを)繋げてルートを構築するノードネットワークツーリズムの導入を検討します。既存の自転車経路検索が可能なアプリを活用して、適切なノードポイントをアプリに更新し、本県の自転車ノードネットワークを形成することにより簡単にナビゲーションできる環境の整備を図ります。		
実施主体	業界団体、民間事業者、市町村、県		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用する既存アプリの選定 ・ 既存アプリのライセンス使用に係る要件の確認 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネットワークの設計・検討 ・ アプリの検討・選定 ・ アプリ内でのノードネットワークの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の公開 ・ 定期的な情報更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な情報更新

アクション6	旅行会社等の意見を取り入れたツアーの造成		
目的	旅行に精通する事業者の意見を取り入れた質の高い自転車旅の提案・推進により、サイクリストの誘客や県民の自転車旅の機運を醸成する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、D: サイクルツーリズム未経験者		
内容	旅行会社等を主体に、国内外のサイクリストが体験したくなる文化や食など沖縄ならではの観光を組み合わせた自転車旅を提案・推進します。サイクリストを招聘し、旅行会社独自の視点での高付加価値意見を取り入れ本県へのツアー造成に繋げ、サイクルツーリズムを活かした「稼ぐ力」のモデルを構築します。		
実施主体	民間事業者、業界団体、県、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行会社にとってメリット(ベネフィット)となるサービス提供の検討 ・ 持続可能な観光体験としての価値の打ち出し方の統一的なコンセプト展開 ・ ツアー造成時における「イベント名(呼称)」の統一(多言語含む) 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光×自転車旅の検討・構築 ・ 統一的なコンセプト構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行代理店によるツアーの販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

施策1. 国内外に対するサイクルツーリズムの情報発信

アクション7	インバウンド誘客に向けたツアーの造成		
目的	自転車文化振興の先進地である台湾やヨーロッパなどのインバウンドに向けてサイクルツーリズムを通じた観光誘客を図る		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、D: サイクルツーリズム未経験者		
内容	自転車の社会基盤化・産業振興・文化振興において先進地である台湾やヨーロッパなどのインバウンドのサイクルツーリズム活性化を図ります。サイクリストやインフルエンサーを招聘したFAMツアーの実施や定期的な意見交換等による継続的な交流の基盤を構築し、それぞれの国向けのツアー造成を検討し、観光誘客を図ります。		
実施主体	民間事業者、業界団体、県、市町村		
課題	・ 誘客先の選定や優先順位の検討		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットとする海外先との調整 ファミツアーの実施 振り返りと課題抽出 	<ul style="list-style-type: none"> インバウンド観光客向けテストツアーの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ツアーの造成 継続した取組

アクション8	デジタルスタンプラリーやフォトコンテスト等のイベント企画の実施		
目的	サイクリストの満足度を高めるプロモーションを実施することで、サイクルツーリズムの活性化と観光誘客に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、D: サイクルツーリズム未経験者		
内容	他地域の事例やツアーを参考に、デジタルスタンプラリーやフォトコンテストなどのイベント企画による自転車旅の促進を図ります。企画と合わせて完走賞や記念メダルなどイベントの参加報酬を充実させることにより、一回の来訪に留めずリピーターが増加するような施策・サービスを展開します。また道の駅やサイクルステーションなどのタイアップするスポットの増設を促進し、県内におけるサイクルツーリズムの基盤拡充にも繋がります。		
実施主体	業界団体、民間事業者、市町村、県		
課題	・ 実施方法、広報宣伝手法の検討		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> 実施方法やシステムの設計 プロモーション実施 振り返りと課題抽出 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組

施策2. サイクリング環境の充実

休憩やセルフメンテナンスができるサイクルステーションの整備、案内標識の設置など、自転車を利用する人々にとって安全性や利便性を高める取組を推進します。サイクリング環境の充実により国内外のサイクリングを楽しむ人々に対しては質の高いサイクルツーリズムを、県民に対してはより良い利用環境を提供します。

アクション9	多言語を含む案内誘導看板等の設置推進		
目的	海外を含めた沖縄に訪れるサイクリストにとって安全・安心・快適な走行空間を整備し、サイクルツーリズムの基盤拡充に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民		
内容	ユニバーサルデザイン仕様やピクトグラムを活用により、デザインと視認性に富んだ県民にも観光客にも有効な案内誘導看板等を全県域に設置します。また、ルート上にカントリーサイン(目的地までの距離が視認できるサイン)などを設けることで、各市町村におけるサイクルツーリズムの機運醸成を図ります。		
実施主体	県、市町村、国、公安委員会・県警		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村間での足並みを揃えた展開 財源の確保 		
手法	1年目	2年目	3年目以降
取組スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 整備エリアの検討 誘導案内の内容検討 	<ul style="list-style-type: none"> 整備推進 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組

アクション10	サイクリストに選ばれる拠点の整備		
目的	自転車を利用する人々にとって安全・安心・快適な拠点を整備することにより、満足度の向上やサイクルツーリズムの機運醸成に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民		
内容	コンビニでのサイクルラック・空気入れ・パンク修理の整備用品の設置や、道の駅でのサイクルステーション設置への支援など、自転車を利用する人々が安全・安心・快適に立ち寄る拠点の整備を図ります。		
実施主体	民間事業者、県、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者の積極的な取組が必要 		
手法	1年目	2年目	3年目以降
取組スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 整備方針、計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 整備の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組

施策2. サイクリング環境の充実

アクション 11	主要観光地や駅・停留所などにおけるシェアサイクルの導入と情報発信		
目的	シェアサイクルを導入することにより、観光客が自転車利用を身近に感じ、利用の拡大のきっかけを創出する		
主たるターゲット	B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、D: サイクルツーリズム未経験		
内容	主要観光地や駅・停留所等においてシェアサイクルを導入し、観光客に自転車利用の機会を創出します。また、サイクルステーションの情報をwebやSNSで発信し、利用者のシェアサイクル利用へのイージーアクセスを図ります。同サービスの多言語対応やトラブルシューティングの一元的な窓口を設けることで、使いたいときにすぐ使える利便性を担保します。		
実施主体	民間事業者、業界団体、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村や観光事業者との連携 ・ 既存サービスとの連携 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各市町村での検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイクルステーションの設置 ・ 運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

アクション 12	公共交通機関を活用した自転車輸送手段の充実		
目的	公共交通機関の受入環境整備を図ることにより、サイクリストの県内移動の選択肢を増やしサイクルツーリズムの推進に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者		
内容	輪行(公共交通機関を使用して自転車を運ぶこと)を想定した実証実験などを経て、バス、モノレール、タクシー、船等の公共交通機関を活用した県内移動の環境を調査します。		
実施主体	民間事業者、県、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種公共交通機関の協力 ・ 県民への配慮 ・ オーバーツーリズムへの対策 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入する交通機関の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車搭載環境の整備 ・ 試験運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス開始

アクション 13	各市町村の自転車活用推進計画策定の促進		
目的	市町村の主体的な計画策定により、地域における自転車利用の機会を創出し、全県を通じてのサイクルツーリズムの推進を図る		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、D: サイクルツーリズム未経験者、E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民、G: 自転車を利用していない県民		
内容	各市町村における自転車活用推進計画の策定を促進します。策定の有無を全県マップにて示すことで近隣市町村などとの足並み合わせが図られ、広域ネットワークの形成を推し進めます。		
実施主体	市町村、県、業界団体、国		
課題	・ 市町村により計画の優先度が異なる可能性がある		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	・ 自転車活用推進計画策定の促進	・ 継続した取組	・ 継続した取組

アクション 14	自転車事故防止のための交通安全対策の推進		
目的	安全対策を推進することにより、自転車を利用する人々が安全・安心・快適に自転車を利用できる空間作りに寄与する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民、G: 自転車を利用していない県民		
内容	自転車事故防止のための交通安全対策の推進を図ります。管轄する警察署との情報共有を図り、注意喚起マップの作成や啓発活動を行うことで、県民への認知とともに、安全・安心・快適に配慮したサイクルツーリズムを推進していることを県内外へ発信します。		
実施主体	市町村、県、県警		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察との連携 ・ 情報共有方法の検討 ・ 情報発信に関連する施策との連携 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車事故発生箇所の調査 ・ 安全対策の検討 	・ 安全対策の実施	・ 継続した取組

施策3. 県民の自転車に対する理解の促進

施策3. 県民の自転車に対する理解の促進

地域・教育機関と連携した取組や自転車のもたらす価値を県民と共有する取組を推進します。正しい交通ルールを理解、交通マナーの普及や県民が自転車に親しみを持って取組などを通じて、サイクルフレンドリーな地域社会の実現を目指します。

アクション 15	自転車の利用を促す普及イベントの実施		
目的	県民に向けて実施することで、自転車への興味・関心を高め、親しみを持ってもらい、自転車利用の推進・拡大に繋げる		
主たるターゲット	E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民、G: 自転車を利用していない県民		
内容	<p>広く県民に向けた、自転車の利用を促す普及イベントを実施します。自転車やサイクルツーリズムについて県民とともに広く考える機会を創出するために、サイクルツーリズムに関するセミナーや自転車教室を実施します。</p> <p>5月の自転車月間(5月5日の「自転車の日」や5月22日の「サイクリングの日」)と併せて開催することで、自転車利用への興味・関心を高め、県民の自転車利用を促します。</p>		
実施主体	業界団体、民間事業者、県、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連するアクションの効果的な実施 ・ 自転車を利用していない県民への訴求 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的取組の検討 ・ 開催地の選定 ・ 施策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

アクション 16	自転車利用のメリットを広く周知するスローガンやネーミングの公募		
目的	スローガンを作成し発信することで自転車ブランドの育成と、移動手段の一つとしての認知を高め、自転車利用の推進・拡大に繋げる		
主たるターゲット	E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民、G: 自転車を利用していない県民		
内容	<p>「わった〜バス党」のようなプロモーション時の共通のスローガンやネーミングを設け、本県の自転車ブランド価値の育成と自転車利用の機運醸成の促進を図ります。公募や年次毎のテーマを掲げて啓発することで、自転車利用の拡大とサイクリストの規範向上、自転車文化の醸成へと繋がります。</p>		
実施主体	業界団体、民間事業者、県		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連するアクションの効果的な実施 ・ 自転車を利用していない県民への訴求 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選定方法の検討 ・ スローガンやネーミングの公募・選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連アクションでのプロモーションへの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

アクション 17	自転車利用の奨励と安全を啓発する活動		
目的	啓発活動により、自転車利用をSDGsや健康増進と紐付け周知啓発し、自転車利用の促進を図る		
主たるターゲット	E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民、G: 自転車を利用していない県民		
内容	全県的な自転車利用の奨励を図る施策を展開し、交通渋滞解消、地球環境への配慮などのSDGsや、健康増進の観点から推奨されていることを広く周知啓発します。また、警察と連携してガイドラインの作成やマニュアルを活用した安全教室を実施し、自転車利用への理解と関心を高め、促進を図ります。		
実施主体	業界団体、県警、県、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連するアクションの効果的な実施 ・ 自転車を利用していない県民への訴求 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推奨する自転車習慣についての情報集約・整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポスターやイベント、パネル展示などによる周知・啓発活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

アクション 18	競技団体を通じて選手を育成・強化する取組		
目的	自転車競技を行う選手や団体に対して支援を行い、選手の育成に貢献し、将来の県出身トップアスリートの台頭による競技人口の裾野を広げ、自転車文化の醸成に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、E: 県内のサイクリスト		
内容	沖縄県スポーツ協会や沖縄県自転車競技連盟及び沖縄県高等学校体育連盟、沖縄県中学校体育連盟などの自転車競技に関わる団体を通じて、選手の育成・強化を図ります。ジュニアアスリートからトップアスリートまで競技環境の提供やスポンサーなど幅広い支援を行うことで、本県の自転車競技の発展に寄与するとともに、アスリートの台頭による競技人口の拡大や、ひいては自転車文化の醸成に繋がります。		
実施主体	業界団体、県、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体の支援だけでなく民間事業者のスポンサーも検討 ・ 既存事業とのすみ分け 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援先の検討 ・ 支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

施策4. 自転車の利便性向上

施策4. 自転車の利便性向上

県内で自転車を利用しやすくなる取組を推進します。シェアサイクルの充実、駐輪場の整備・拡充等、利用環境の整備に取組み、県内における交通手段として自転車を選択できる地域の実現を目指します。

アクション 19	県内におけるレンタサイクルやシェアサイクルの充実		
目的	県内に充実させることにより、県民や観光客が交通手段(日常利用から災害時まで)のひとつとして自転車を選択し、ひいては自転車の利用促進に繋げる		
主たるターゲット	E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民、G: 自転車を利用していない県民		
内容	災害時の交通手段となることを含めて、県内におけるレンタサイクルやシェアサイクルを充実させ、各地域で利用できる状態にします。誰もがいつでも気軽に利用できる移動手段としての自転車の定着を目指します。 また、企業や自治体などへシェアサイクルを身近なものとして意識づけを図ります。		
実施主体	民間事業者、業界団体、県、市町村		
課題	・ 市町村との連携		
手法	1年目	2年目	3年目以降
取組スケジュール	・ 整備計画の検討	・ エリア毎の整備開始	・ 継続した取組

アクション 20	サイクルラック及び駐輪場設置の整備推進		
目的	駐輪スペースを整備推進することで、サイクリストだけでなく県民の自転車利用を身近にし、利用機会を創出する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民		
内容	サイクルラックや駐輪場設置の整備を推進します。長期駐輪・路上放置対策の強化、防犯カメラを付帯した新たな駐輪場の設置等を検討し、安全・安心・快適な駐輪場の整備推進を図ります。		
実施主体	県、市町村、民間事業者		
課題	・ 推進のための整備計画が必要 ・ 財源の確保		
手法	1年目	2年目	3年目以降
取組スケジュール	・ 駐輪場の整備計画の策定	・ 整備推進 ・ 試験運用	・ 運用開始

アクション 21	学校等への自転車の提供		
目的	自転車を学校に提供することで、自転車利用の機会創出に繋げる		
主たるターゲット	G: 自転車を利用していない県民		
内容	こどもたちに自転車を身近に感じてもらうために、希望する学校に自転車の提供を行います。自転車に触れる機会を作り、自転車の楽しさや、交通安全の遵守を学ぶ機会を創出します。		
実施主体	民間事業者、業界団体、市町村、県		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財源の確保 ・ 支援者の協力 ・ 希望学校の調査 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望学校の選定 ・ 自転車講習の団体の選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車装備の支援 ・ 寄贈先の学校に対する自転車講習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

アクション 22	自転車教室の実施の支援		
目的	自転車の安全走行を啓発する自転車教室の実施を支援することで、交通手段として自転車を選択できる地域社会づくりに寄与する		
主たるターゲット	F: 日常利用している県民、G: 自転車を利用していない県民		
内容	幼児や小学生、自転車に乗りたいこどもを対象にした自転車教室実施へ支援を行います。教室の実施にあたっては、こども達に対して適切な自転車の乗り方、交通安全の遵守を推奨し、自転車の安全走行を身につけさせます。		
実施主体	市町村、業界団体、民間事業者		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の方法の検討 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援方法の検討 ・ 自転車教室の取組内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車教室の開催 ・ 内容の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

施策5. サイクルツーリズムに取り組む事業者への支援

施策5. サイクルツーリズムに取り組む事業者への支援

サイクルツーリズムに取り組む事業者（自転車関連サービス、宿泊業、小売業、観光業、交通・輸送等）と自治体が連携し、事業の拡大に取り組めます。事業者の取組を後押しする自治体の支援や事業者間の連携などにより、サイクルツーリズム関連事業を拡大し、サイクルツーリズムによる地域経済の活性化を目指します。

アクション 23	ファッション目線からのプロモーション施策の実施		
目的	サイクリストに対するファッション目線でのアプローチとサイクルツーリズムによる事業者のビジネス機会の創出を図る		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト		
内容	幅広い層に沖縄のサイクルツーリズムを楽しんでもらうために「ファッション目線」からのプロモーション施策を推進します。沖縄県衣類縫製品工業組合や県内業界団体、自転車関連事業者との協働により、サイクリングアイテムの開発などのタイアップの実施を図ります。県民と観光客双方が「サイクリストの証」としてのアイテム等を身につけることによって沖縄らしさを演出し、ひいては事業者のサイクルツーリズムによるビジネス拡大の機会を創出します。		
実施主体	民間事業者、業界団体、県		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 事業者のマッチング アイテムとなる商品の開発 		
手法	1年目	2年目	3年目以降
取組スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 市場調査及び商品開発 	<ul style="list-style-type: none"> 商品の販売、普及 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組

アクション 24	サイクリングガイド資格取得の支援		
目的	資格取得を支援することによりサイクリングガイドの育成を促進し、地域のサイクリングツアーの受入強化、ひいてはサイクルツーリズムによる地域の活性化に寄与する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民、G: 自転車を利用していない県民		
内容	観光人材育成の観点から、サイクリングガイドを目指す人材に対して資格取得の支援を行い、既存のまち歩きガイドやネイチャーガイドにとっては新たな観光ガイドの手法として機会創出に繋がります。また定期的なスキルアップに繋がるリスキリング講習についても同様に支援を行います。		
実施主体	県、業界団体		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 制度の運用方法の検討 支援方法の検討 		
手法	1年目	2年目	3年目以降
取組スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 支援内容の検討 支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組

アクション 25	サイクリストを受け入れる宿泊施設への支援		
目的	サイクリストが快適に過ごせる宿泊施設が増えることで、リピーターの獲得やサイクリスト間での口コミから観光需要の増加を促し、地域の経済活性化に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト		
内容	サイクリストに特化したサービスを提供する宿泊施設をサイクルステーションとして充実させるための支援を実施します。サイクルラックの設置や自転車置き場のセキュリティ完備や自転車の受入環境の整備を支援することで「サイクリストに優しい沖縄」のブランドを構築し、リピーター獲得や口コミによる観光需要の増加を図ります。		
実施主体	民間事業者、県、市町村		
課題	・ 具体的な支援施策の検討		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制度設計の検討 ・ 支援施策の検討 ・ 施策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

アクション 26	アクティビティや観光事業者へのサイクルツーリズム導入の支援		
目的	事業者に対してサイクルツーリズムを推進するメリットを認知・理解してもらい、サイクリストを対象にしたサービスの拡充を図ることで、サイクルツーリズムによる経済活性化に寄与する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト		
内容	サイクルツーリズムを活用した事業者に対する支援を行います。補助や助成だけでなく、理解を促すセミナーなど、支援の手法を検討しながら実施します。 サイクルツーリズムセミナーの実施により、観光立県としてサイクルツーリズムのポテンシャルをどう「稼ぐ力」と紐づけるのかを事業者に考える機会を創出します。ナショナルサイクルルートに指定された地域から、企業やサービス提供者及び有識者を招聘し、サイクルツーリズムを深く学び地域の活性化に繋がる機会を設けます。		
実施主体	業界団体、民間事業者、県		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援方法の検討 ・ セミナー等施策の検討 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策内容の検討 ・ セミナーの実施 ・ 講習会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

施策 5. サイクルツーリズムに取り組む事業者への支援

アクション 27	サイクルツーリズムの関連事業者に対する市場調査・フォローアップ		
目的	サイクルツーリズムに従事する事業者に対する市場調査・フォローアップを行うことで、サイクルツーリズムを分析し戦略的な展開に寄与する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト		
内容	サイクルツーリズムに従事・関連する事業者を対象とした市場調査を行います。例えば市場の規模とポテンシャルを精査した上で、「稼ぐ力」に寄与する分野の選定や先進地と比較して満足度の伴わないサービスなど優先順位を決めて一定水準に達するまでのフォローアップなどの取組を図ります。		
実施主体	業界団体、民間事業者、県、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法の検討 フォローアップ方法の検討 		
手法	1年目	2年目	3年目以降
取組スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 市場調査 調査内容の分析 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者へのフィードバック、コンサルティング 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組

アクション 28	県外・海外のサイクリストへの輸送サービスの充実		
目的	輸送サービスの支援によって、サイクリストの需要が伸び、サイクルツーリズムによる観光誘客の拡大に寄与する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者		
内容	県外・海外から来沖するサイクリストの輸送（公共交通機関を使用して自転車を運ぶこと）にあたっての支援や、代行サービス、機材のレンタルなどの拡充を支援します。また輸送にかかる窓口を設け、サイクリストが求めるサービスの情報を提供できる環境を支援します。その窓口を集約されるサービスへの満足度や課題を精査し、適正を見極めながら支援内容・支援方法の検討に繋がります。		
実施主体	業界団体、民間事業者、県、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 支援方法の検討 		
手法	1年目	2年目	3年目以降
取組スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> サイクリストからの課題や改善の声を収集 支援内容の協議 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組

施策5. サイクルツーリズムに取り組む事業者への支援

アクション 29	自転車輸送できるタクシー及び関連サービス事業者への導入支援		
目的	導入・活用を図ることによって、サイクリストにとって利便性が上がり、サイクルツーリズムによる観光誘客の拡大に寄与する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト		
内容	自転車の輸送を希望するサイクリストの利用が期待できることから、自転車輸送用のサイクルキャリア(自転車を車両などに固定する器具)の搭載を希望するタクシー会社や関連サービス事業者への導入支援を行います。		
実施主体	県、民間事業者、業界団体		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ タクシー会社及び関連サービス事業者へのメリット(ベネフィット)の訴求 ・ 希望事業者の調査 		
手法	1年目	2年目	3年目以降
取組スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望事業者の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運用開始 ・ 振り返りと改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

施策6. ナショナルサイクルルート指定を含む沖縄らしいルートの整備

施策6. ナショナルサイクルルート指定を含む沖縄らしいルートの整備

沖縄本島1周ルートの「ナショナルサイクルルート」指定に向け、国や市町村と連携し、道路整備など指定要件の充足に取り組めます。また、離島を含め地域の特徴を活かしたサイクルルート創出を促し、それぞれの地域でサイクルツーリズムが活性化するように取り組めます。

アクション 30	ナショナルサイクルルート指定に向けた取組の推進		
目的	ナショナルサイクルルート指定を目指し、ルートの整備に取り組むとともに、サイクルツーリズムの活性化に寄与する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト		
内容	ナショナルサイクルルート指定に向けた走行環境・受入環境・ルートの魅力づくり等の整備を進めます。整備に向けた各課題に際しては、有識者ならびに市町村や警察を含めた官民が連携した推進協議会を発足し、推進を図ります。 指定にあたっては沖縄自転車ネットワーク計画で定められた本島1周ネットワークを基幹ルートとして検討します。		
実施主体	県、国、市町村、県警、業界団体、民間事業者		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村の推進や県警の協力 ナショナルサイクルルート有識者による助言 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ルート整備に係る協議 整備の推進 有識者による助言 	<ul style="list-style-type: none"> ルート指定に向けた申請 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組

アクション 31	自転車走行環境の整備推進		
目的	自転車を利用する人々にとって安全・安心・快適な走行空間を整備する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民		
内容	ナショナルサイクルルート指定要件の走行環境に含まれる矢羽根型路面表示、ルート名・距離の路面表示や案内看板、注意喚起看板など安全・安心・快適な自転車走行空間の整備を推進します。誰からも交通手段のひとつに自転車が選ばれる環境を目指します。		
実施主体	県、市町村、国、県警		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 整備対象のルート設定 全県的な自転車活用推進計画の推進 財源の確保 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> 整備ルートの検討 市町村の自転車活用推進計画の施行 	<ul style="list-style-type: none"> 整備推進 	<ul style="list-style-type: none"> 継続した取組

施策6. ナショナルサイクルルート指定を含む沖縄らしいルートの整備

アクション 32	ゲートウェイの設置		
目的	サイクルツーリズムの起点となるゲートウェイを設置し、利便性を担保すると同時に沖縄らしさの空間演出を図り、国内外のサイクリストの満足度の向上に繋げる		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト		
内容	<p>本県のサイクルツーリズムのゲートウェイの設置を推進します。本島1周の際のスタート地点/ゼロ地点のモニュメントを設置することで、シンボル兼フォトスポットとしても立ち寄ることができる、象徴的な場所として確立します。</p> <p>「人・自転車・荷物」の動線を鑑みて候補地を絞り、それぞれの SWOT 分析などから総合的な判断の上で選定します。</p> <p>(候補地(案): 那覇空港、奥武山運動公園、旭橋駅、泊港、泊緑地、北谷町、本部町ほか)</p>		
実施主体	県、市町村、業界団体、民間事業者		
課題	<ul style="list-style-type: none"> 候補地の選定及び確保 財源の確保 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> 候補地の選定 	<ul style="list-style-type: none"> 設置計画の策定 試験運用の実施(複数回) 	<ul style="list-style-type: none"> 設置計画の実施

アクション 33	地域の魅力的なスポットを巡るコースの整備		
目的	地域毎に魅力を発信できるコースを整備し、サイクルツーリズムを推進することで地域の活性化に寄与する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト、F: 日常利用している県民		
内容	<p>本島1周ネットワークの他に、離島を含めた地域の魅力的なスポットを巡るコースを整備・発信し、県民も観光客も気軽に楽しめるコースを策定します。これによりポタリングを含めたサイクルツーリズムの楽しみ方の普及・浸透を図り、ひいては地域の活性化に寄与します。</p>		
実施主体	市町村、県、業界団体、民間事業者		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ルートの指定方法の検討 「本島1周ルート」や「ナショナルサイクルルート」との位置付けの整理 市町村との連携 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> 市町村等への案内(参画の打診) 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村毎のルートの指定 	<ul style="list-style-type: none"> 認知促進の為のプロモーション

施策6. ナショナルサイクルルート指定を含む沖縄らしいルートの整備

アクション 34	地域性を活かした街中を散策(まちまーい)できる自転車ツアーの提案・推進		
目的	街中散策のツアーを推進することにより、自転車による地域の観光周遊の新しいスタイルを構築する		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者		
内容	地域ごとの文化や自然環境などの特性を活かした街中を散策(まちまーい)できる自転車ツアーの提案・推進を図ります。ツアーの企画にあたっては民間事業者や観光協会を主体とし、地域の観光人材を育成し、地域の活性化に繋がります。		
実施主体	民間事業者、業界団体、市町村		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の魅力的なスポットを巡るコースとの連携 ・ ビジネスモデルの確立 		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街中散策のコースの検討・選定 ・ モニターツアーの催行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービスの開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組

アクション 35	九州・山口・沖縄サイクルツーリズムを活用した観光誘客の推進		
目的	他県、他地域と連携することにより、サイクルツーリズムの情報を収集するとともに、サイクルツーリズムの推進、活性化を図る		
主たるターゲット	A: サイクルアスリート、B: 県外・海外のサイクリスト、C: サイクルツーリズム経験者、E: 県内のサイクリスト		
内容	ナショナルサイクルルート指定に取組むエリアや沖縄と類似・共通点を有する他県・他地域とのネットワークを活用した観光誘客の推進等を活用する広域ネットワーク化を図ります。		
実施主体	県、市町村、業界団体		
課題	・ 九州・山口との連携方法		
手法 ・ 取組スケジュール	1年目	2年目	3年目
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「九州・山口サイクルツーリズム推進委員会」との情報交換 ・ 九州・山口との連携方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携施策の実施 ・ 他地域とのネットワーク化の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続した取組